



2020年3月期 第2四半期 決算説明会

クボテック株式会社

概要

- ◎大手フラットパネルディスプレイメーカーなどの設備投資は低調で、主力の検査機システム事業は厳しい受注環境が続いております。
当社グループは抜本的な構造改革が不可欠と判断し、同事業が中国など特定の市場や顧客の設備投資動向、受注に依存する現状から、高機能フィルムや次世代パネル検査装置などの品質や採算を重視した市場、製品を収益の柱とする事業への転換を進めております。また、創造エンジニアリング事業、オーディオ事業の収益拡大とエネルギー事業の開発加速化など事業構造の改革にも努力を重ねております。
- ◎当第2四半期は、売上は前年同期を大幅に上回り、経常損益は黒字となりました。
この主な要因は、国内大手ガラスメーカー向けの画像処理外観検査装置の増収と、経費削減効果によるものです。
- ◎このような状況で、通期の損益は、前期から業務効率の改善や固定費削減等の施策を実施してまいりましたが、上記事業再構築に向けた現段階では、売上が想定以上に減少し、経常損益は赤字となる見通しです。

経営成績

(単位:百万円)

	当第2四半期 (2019年9月期)	前第2四半期 (2018年9月期)	前 期 (2019年3月期)	当期予想 (2020年3月期)
売上高	1,243	862	1,637	1,850
営業利益(△損失)	77 (6.2%)	△246 (△28.6%)	△ 742 (△45.4%)	△ 210 (△11.4%)
経常利益(△損失)	71 (5.8%)	△130 (△15.1%)	△ 632 (△38.6%)	△ 220 (△11.9%)
当期純利益(△損失)	69 (5.6%)	161 (18.7%)	102 (6.3%)	△ 230 (△12.4%)

◎当第2四半期は、主力の画像処理外観検査装置が国内向けなどで前年同期に比べ約60%伸長し、またそれ以外の事業も増収となりました。

◎損益は、採算を重視した営業活動や製品構成、前期から実施しております業務効率の改善、固定費削減の効果を反映し、収益性は改善しました。

◎しかし通期では売上は前期より増加するものの、事業再構築に向けた現段階では収益は計画通りには伸びず、経常損益は220百万円の赤字となる見込みです。

貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 (2019年9月期)		前 期 (2019年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産				
現預金	2,272	64.8	2,260	62.8
売上債権	773	22.0	818	22.7
在庫	202	5.8	226	6.3
その他	△ 3	△ 0.1	37	1.0
固定資産	264	7.5	258	7.2
資産計	3,508	100.0	3,600	100.0
流動負債	1,375	39.2	1,307	36.3
固定負債	741	21.1	966	26.8
負債計	2,116	60.3	2,273	63.1
資本金	1,951	55.6	1,951	54.2
利益剰余金	△ 506	△ 14.4	△ 576	△ 16.0
その他	△ 52	△ 1.5	△ 48	△ 1.3
純資産計	1,391	39.7	1,327	36.9
負債及び純資産合計	3,508	100.0	3,600	100.0

◎総資産は、前期末に比べ、売上債権、在庫などが減少した結果、35億円となりました。

◎負債は、前期末に比べ、仕入債務が増加したものの、借入金の返済などで減少し、21億円となりました。

◎純資産は、前期末に比べ、純利益の計上などで7千万円増加し、約14億円となりました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当第2四半期 (2019年9月期)		前第2四半期 (2018年9月期)		前 期 (2019年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
日 本	983	79.1	506	58.8	1,006	61.5
米 国	197	15.9	187	21.7	383	23.4
韓 国	62	5.0	168	19.5	247	15.1
計	1,243	100.0	862	100.0	1,637	100.0
うち海外	376	30.3	396	45.9	912	55.7

◎日本では、国内大手ガラスメーカー向けの画像処理外観検査装置や、3次元CADソフトの売上が計画を上回り、前年同期に比べ伸長しました。

◎米国では、3次元CADソフトウェアの売上が伸び悩み、新製品の開発と販売に注力しているところです。

◎韓国では、韓国大手FPDメーカー向けの画像処理外観検査装置関連が減収となりました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 (2019年9月期)	前第2四半期 (2018年9月期)	前 期 (2019年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	333	△ 267	△ 23
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 88	437	1,284
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 221	367	△ 89
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 11	△ 12	△ 9
V.現金及び現金同等物の増加額	11	524	1,160
VI.現金及び現金同等物の期首残高	2,228	1,067	1,067
VII.現金及び現金同等物の期末残高	2,240	1,591	2,228

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、純利益、減価償却費の計上、仕入債務の増加などで3億3千万円の収入となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、ソフトウェアの取得などで8千万円の支出となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、銀行への返済の結果、2億2千万円の支出となりました。